資料９

平成30年度 がん・循環器病対策部会の開催概要について

１　開催状況

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 部会名 | 開催日 | 出席委員数 | 主な議題 |
| がん・循環器病対策部会 | H31.２.14(木) | ８名 | ・がん検診の実施状況について・特定健診・特定保健指導の実施状況について |

２　部会における主な意見

（１）がん検診の実施状況について

〇各がん分科会の内容を報告し、がん検診の受診率について下がっているものがあることから、県としてそもそも受診率を上げていくべきと考えているのか、実際に受診率が下がっている現状について課題であると捉えるべきとの意見が出された。

〇データの出し方について、その目的や対象、計算方法などを記載しないと、見ている側は疫学や統計学の専門家でない人（県民）もいるため、誤解を与えかねないことに注意する必要があるとの意見が出された。

〇全国がん登録が法施行されたことについて、今後の精度管理やデータ分析に期待されることから、全国がん登録を着実に実施していくべきとの意見が出された。

（２）特定健診・特定保健指導の実施状況について

〇分科会の内容を報告し、死亡状況（衛生統計年報）を確認した。県の死亡状況（H29）は１位：悪性新生物、２位：心疾患、３位：老衰、４位：脳血管、５位：肺炎であるのに対し、全国の死亡状況（H29）は１位：悪性新生物、２位：心疾患、３位：脳血管、４位：老衰、５位：肺炎であることを共有した。

〇市町村国保とその他の医療保険者のデータの両方を取得することが難しく、地域全体の被保険者の状況を把握しきれないことが課題だと指摘された。

〇特定健診・特定保健指導の実施状況から、保険者により実施率が異なる状況を確認した。要因として、健康保険組合は大企業が多いため管理が行き届いていると思われる一方、協会けんぽには中小企業が多く、事業所数も多いため管理が行き届きにくい状況が挙げられ、全国的にも事業者数の多い首都圏は実施率が低い状況であると共有した。